

博士(文学)学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	山田 徹也
論文題目	ロシアの民間信仰における妖怪の機能と物質文化 —蒸風呂小屋の妖怪バンニク信仰を中心に—
<p>審査要旨</p> <p>本学位請求論文は、ロシア口承文芸においてブィリチカと呼ばれる、超自然的怪異を扱った口頭伝承のジャンルを研究の素材としている。虚構として語られる民話と異なりブィリチカはあくまで事実として語られる。このためこのジャンルの語りは口承文芸の一ジャンルとして研究の対象となるだけでなく、民間伝承の研究の基礎となる文化人類学的資料でもある。</p> <p>本学位請求論文は、このブィリチカに登場する超自然的存在の中で、バンニクと呼ばれる、蒸風呂小屋に現われる妖怪をとりあげ、この妖怪の人間との関わりの特異性を、ロシア民衆の物質文化において重要な位置を占める蒸風呂小屋の機能と、建築学的に見たその歴史的変遷との関わりにおいて明らかにしようとしたもので、ロシアの学界でもまだ提起されたことのない新しい視点の導入を示している。一次資料を駆使し、ロシア人研究家の理論的営為を批判的に消化した上で、独自の結論を導いている点で高く評価できる論文といえよう。</p> <p>論文の構成は序章とそれに続く八章、結論から構成されている。第一章「妖怪研究の概略」ではロシアの民俗学と口承文芸学における妖怪研究史が批判的に概観され、特に蒸風呂小屋の妖怪バンニク、母屋の妖怪ドモヴォイ、家畜小屋の妖怪ドヴォロヴォイについての研究が紹介されている。</p> <p>第二章「妖怪の持つ二面性とバンニク信仰における諸特徴」ではロシアのブィリチカに登場するバンニクが人間に対して持つ、敵対者であると同時に助力者であるという矛盾をはらんだ二面的性格が他の妖怪には見られない特徴として指摘される。</p> <p>第三章「ロシアの家屋とそこに棲む妖怪の関係」ではロシア農村の家屋の構造とそこに出現する諸妖怪の性格がバイブーリンによる空間論的分析との関連で検証される。</p> <p>第四章「蒸風呂小屋の歴史とバンニク信仰」では農村における蒸風呂小屋の配置の歴史的変遷が考古学的知見を参照しながら検討され、蒸風呂小屋が歴史的に母屋から分離したことが明らかにされる。</p> <p>第五章「蒸気浴とバンニク信仰」では蒸気浴の実際とブィリチカに語られる蒸風呂小屋での怪異現象との関係が災因論的視角から実証的に検討される、</p> <p>第六章「出産とバンニク信仰」では蒸風呂小屋が伝統的に出産の場として用いられたことをとりあげ、バンニクと出産儀礼との関係、いわゆる「取替えっこ」のモチーフとバンニクとの関係が論じられる、</p> <p>第七章「スヴァートキにおける占いとバンニク信仰」では蒸風呂小屋で新年にバンニクの助けを借りて行われる占いが彼の助力者的機能との関連から論じられる、</p> <p>第八章「バンニク信仰の変化」ではバンニク信仰の歴史的変遷が分析され、蒸風呂小屋の母屋からの分離が、バンニクの持つ二面的性格の起源として結論づけられる。結論において妖怪研究における通時的視点と共時的視点の相互補完的性格が改めて確認されている。</p> <p>本論文の特徴は、口承文芸研究と民俗学的研究を物質文化の歴史的研究によって総合した点にあり、可能な限りの文献を渉猟し、説得力ある論を展開している点にある。</p> <p>学位請求論文審査会では「妖怪」の概念規定に若干の曖昧さが残ることが指摘され、またブィリチカというジャンルの特殊性を考えると、論者が自身のフィールドワークによって獲得した一次資料によ</p>	

って論を進められたなら、文化人類学的な視点から更に説得的な論になっただろう、という感想も出されたが、総体として博士の学位を与えるに相応しい内容と質を持つ論文と評価されるものである。

公開審査会開催日	2011年 12月 24日		
審査委員資格	所属機関名称・資格	博士学位名称	氏名
主任審査委員	文学学術院教授		伊東一郎
審査委員	文学学術院教授		源貴志
審査委員	札幌大学非常勤講師	文学博士（早大）	塚崎今日子
審査委員			
審査委員			